

## あとがき

本書の出版のきっかけは、私のオーストラリア生活である。私は2005年から2009年に約5年間ブリスベンにて、2014年には約半年間シドニーにて、研究生生活を送った。ブリスベンに渡った際には戦争花嫁の方々に暖かく迎えて頂き、被爆の経験や、戦争の記憶と感情の残っていた豪州での生活について深く聞く機会もあった。また、たくましく育つ二世の人々との出会いもあった。彼ら・彼女たちとの出会いの中で、駐在員の減少、二世・三世の増加、一世の高齢化など、様々な変化を経験する日本人社会を間近に見ることとなり、日本人社会の過去と現在そして未来をつなぐ作業を行いたいという気持ちに至った。

本書は、これらの思いを共有する当該分野の研究者たちと共に開催・参加したシンポジウムや学会のパネルセッションが基盤となっている。2009年にはクイーンズランド大学にてシンポジウム *Diaspora as Process: The Japanese Diaspora in Queensland*, 2010年にはモナッシュ大学にてシンポジウム *Japanese Community in Transition: Australia 2010*, 2014年にはモナッシュ大学にてセミナー *Rethinking "Cultural adaptation" and "Ethnic Community" in the Age of Mobility*, 2015年には慶應義塾大学にてオーストラリア学会のパネルセッション「在豪日本人研究の現在」が開かれた。これらの会の主催者として、我々研究者の邂逅の場を与えて頂いた永田由利子先生（クイーンズランド大学）、岩渕功一先生（モナッシュ大学）、塩原良和先生（慶應義塾大学）、水上徹男先生（立教大学）に感謝申し上げます。また、研究活動を通して出会い、そして本書の趣旨に賛同頂いた執筆者の先生方に心からお礼申し上げます。

最後に本書の出版を快諾して頂いた法律文化社および企画の段階から細やかなアドバイスと激励を頂いた編集部の方々に深く感謝申し上げます。

編者 長友 淳